

成果指標と結果		令和2年	令和5年
運動器機能の低下傾向にある高齢者の割合	男性	4.7%	
	女性	10.0%	

現状と課題

令和2年10月1日時点の本市の高齢化率は29.3%であり、全ての団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）となる2025(令和7)年には30%を超えることが見込まれている。要介護認定率は17.2%と年々上昇しており、特に要支援1の割合が増加傾向にある。

そのため、住民が主体的に介護予防に取り組む「通いの場」に対し、リハビリテーション専門職が運動指導・体力測定等の支援を行っており一定の効果が認められている。一方、介護予防教室や通いの場の参加人数は減少傾向にあるため、教室内容の充実を図るとともに、周知方法についても検討し、多くの市民がフレイル予防に取り組めるよう事業を推進していく必要がある。

第8期における具体的な取組

- ・通いの場の参加者について、2025(令和7)年に参加者が高齢者人口の8%となるよう取組を推進する。
- ・フレイルサポーター等のボランティア活動を支援し、高齢者の社会参加と介護予防活動を推進する。

事業の目標と実績（事業内容、指標等）

事業の目標と実績（事業内容、指標等）	第8期目標			第8期実績	
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和3年度	令和4年度
介護予防教室					
開催回数	250	260	270	141	158
地域リハビリテーション活動支援事業					
支援回数	70	75	80	18	21
通いの場					
登録団体数	40	45	50	45	41
参加実人数	884	995	1,104	887	745
参加実人数／高齢者人口（%）	4.0	4.5	5.0	4.0	3.3%

実施内容

- ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、延期していた介護予防講演会を対面にて実施。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、活動自粛が生じた通いの場の再活性化を目的とした「通いの場交流会」を実施し、160名のかたが参加。
- ・フレイルサポーター養成研修を2回実施し、計33名のフレイルサポーターを養成した。
- ・Withコロナの取組みとして、新たにInbodyと血管年齢測定機器を導入し、看護師による測定会を実施。

評価

介護予防教室・通いの場においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により参加控えが生じ、目標回数を下回った。地域リハビリテーション活動支援事業においては、新規事業のフレイルサポーター養成研修や介護予防サポーター事後研修等の充実に伴い、目標回数を下回った。

課題と今後の取組

新型コロナウイルスの感染拡大による活動自粛のため、高齢者の身体機能の維持やフレイル予防が課題となっている。そのため、Withコロナの取組として開始した「Inbody・血管年齢測定会」を通じ、新たに介護予防教室・通いの場の参加者の開拓を図っていく。さらに、高齢者のフレイル予防や自立支援・重度化防止に関する介護予防講演会や研修会を開催し、地域における介護予防活動の再活性化を図っていく。